

平成 27 年度
生活介護事業所アンジュ
事業報告

1. 利用者状況

○在籍状況 男性 52 名 女性 28 名 合計 80 名

(平均年齢) 男性 54.8 歳 女性 57.4 歳 全体 55.7 歳

○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	4	2	11	12	17	6	52
女性	1	1	4	8	11	3	28
合計	5	3	15	20	28	9	80

○支援区分別 平均支援区分 3.6

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	8	13	17	9	5	52
女性	8	8	4	4	4	28
合計	16	21	21	13	9	80

○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	21	18	22	22	21	22	22	19	20	19	20	22	248
男性	54	55	55	55	55	55	53	53	52	52	52	52	643
女性	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336
利用者数	82	83	83	83	83	83	81	81	80	80	80	80	979
出席率	95.2	95.3	95.2	96.1	89.6	84.7	86.5	91	88.6	86.6	87.8	89.7	90.9

- ・新規利用者 3名 (4・5月：グループホームより各1名 3月入所施設1名)
- ・退所者 4名 (10月：他事業所2名 12月：医療機関1名 3月：死亡1名)

○職員体制

・アンジュ

管理者 1名

サービス管理者 2名

生活支援員 11名 (常勤9 非・パート2名)

看護師 1名 (兼務)

運転手 1名 (パート1名)

事務員 2名 (常勤1名 パート1名)

・従たる事業所オリーブ

生活支援員 3名 (常勤1名 非常勤2名)

・従たる事業所エコライフプラザ

生活支援員 5 名（常勤 1 名 非・パート 4 名）

- ・従たる事業所原町食堂・キッチン Kiss

生活支援員 1 名（常勤） 調理員 1 名（非常勤） 配達運転手 1 名（パート）

ト)

- ・従たる事業所モモズレシブ

生活支援員 2 名（常勤 1 名 非常勤 1 名）

- ・10 月異動 1 名（常勤） 12 月退職 1 名（常勤） 2 月退職 1 名（常勤）

12 月産休 1 名（常勤） 育休 1 名（常勤）

11 月雇用 1 名（パート）

○利用者工賃

27 年度利用者一人当たり平均工賃 6,419 円

- ・利用者工賃の見直しを行い 500 円～1000 円アップした。

（過去 2 年の平均工賃）

26 年度利用者一人当たり平均工賃 7,706 円

25 年度利用者一人当たり平均工賃 6,752 円

2. 日中活動支援

センタービル 2・3 階

今年度 7 月よりセンタービルで活動する利用者の再編成を行った。能力・適性・介助度に応じ、主に生産活動を中心に行う利用者を 3 階、生産活動の他、創作活動等の日中活動に重点を置く利用者、介助度が高い利用者を 2 階に配置し、職員体制を見直し活動を行った。全体的に利用者の病気の進行が目立ち、作業能力や活動意欲にも大きな影響が表れた。また、個別での運動プログラム提供等をコンセプトにしていたが、重点的には実施出来なかった。

3 階では、生産活動を主に行い、自主性や責任感等を持てるよう支援を行い、作業や活動で顕著に成長した利用者も見られた。

各種活動

(1) 生産活動

①受注作業

（株）東栄社・（株）小笠原・（株）岩井の 3 社からの請負作業を主に行った。

○（株）東栄社

学習教材の袋詰めを中心に受注した。作業の内容も流れ作業から個人で完結出来る作業等、利用者全員が携われる事を第一に考えて受注した。その為、多くの利用者が無理なく作業に携われる事ができた。しかし、受注の種類が増える事により量も増え、職員の作業準備の為の負担が大きくなってしまった。

受注量の増減は殆どなかったが、利用者の生産数は徐々に減っている。対策とし

て、席の配置や作業の流れの工夫、やり方の検討なども必要であるが、利用者自身の高齢化によるものも視野に入れ、受注量の検討も必要であると考えられる。

収入：1,750,422円

○(株)小笠原

ボールペンの活動は、季節に関係なく平均的に受注がある為、毎月安定した収入が得られた。ボールペンは、組み立てが主でディズニーのキャラクターが多い為、利用者の皆さんが楽しく活動に参加していた。

5月に受注先の問題で一時的に受注が減ったが、6月からは通常通り受注があり利用者の皆さんも大変喜んでいて。ボールペンの組み立て作業は、他の軽作業と違い「自分で完成させた。」との実感があり自信に繋がり活動に積極的に参加出来る要因になっている。高齢化が進んでいる中、ボールペンの作業で少しでも老化現象を遅らせる事が出来れば理想的である。

収入：569,727円

○(株)いわい

作業内容は主にネジの袋詰めが多く、受注依頼があった時のみ受注した。納期や納品数から、受注後に一部キャンセルすることもあり、受注先担当者と調整し、納期や納品数も余裕を持った受注になった。また、作業内容も利用者に適したものを相談させていただけるような関係を築いた。

収入：44,153円

②レンタルタオル

レンタルタオルも4年目を迎え、利用者の活動として定着した。返却されたタオルの洗濯から始め、乾燥後まで利用者が完璧に行う事が出来た。

7月より作業場所を3階から2階に変更した。2階においても集団の中で作業を行う事が苦手な利用者が安定して行う事が出来る作業としての役割を担い、出来る喜びとやれば出来るとの自信を利用者に持たせることが出来た。また、配達健康維持の為の運動量の確保にもつながった。

配達先は9か所で発注内容が一部変更になったグループホームもあったが、前年度同様の作業量を確保出来た。

収入：385,712円

③自主生産活動

○リサイクルペーパーポット

植木鉢作りへの参加は表を使って回数が偏らないように配慮した。参加利用者は満足気な様子が見られ、より多くの参加を希望していた。

生産品はゆず屋で販売した他、エコライフプラザのエコフェスタや清掃フェアでの無料配布を行った。販売数は少ないが、好んで購入する方も見られた。

イベントでも利用者が参加し、配布時に利用者が関わる事で事業所のPRと地域との交流に役立った。植物とのセットでの販売は出来なかった。

収入：4,730円

○しめ飾り

職員体制や、他作業との兼ね合いで十分な活動時間を取ることが出来ず目標 150 個に達することは出来なかったが、和やかな雰囲気です活動することが出来、活動を希望する利用者も多かった。

12月上旬から区役所販売会やゆず屋にて販売を行い100個売り上げた。また、新たな受注先として成田空港の土産店に、着物を使った2種類の商品を置いて頂くことが出来た。

デザインやモチーフの色を数種類使用したことで、利用者が好きな色を工夫して制作することや、幅広い利用者に携わってもらうことが出来、個々の能力、個性に合わせて活動することが出来た。

収入：41,200円

○アクリルたわし

購入者からの要望も頂く中で活動の合間を利用し製作を行い、28年1月より「ゆず屋」での販売を再開した。利用者自ら、販売に向け具体的な製作目標を掲げる等、意欲的に参加していた。

収入：5,500円

(2) 清掃活動

センタービル内のみではなく、新しい活動場所である「まーち」の清掃活動も行った。実際は「まーち」で活動しない利用者も、他利用者が利用する活動の場を清掃する事で清掃班としての自覚も強まり、他利用者から感謝されることで達成感を得られ、結果、清掃の質も高まり、ミスが減らすきっかけにも繋がっていった。その他、以前は生活面で居室の清掃を行っていなかった利用者も日中に清掃活動を続けていく中で、生活の場でも清掃を行うようになるなど、生活面にも変化がみられている。

収入：480,000円

(3) 創作活動

新たな題材にガムテープやビニールテープ、クラフトバンドの組み紐等を使った作品に挑戦した。事前に見本を作っておく事で利用者もイメージし易く意欲的に挑戦する事が出来た。しかし、難しい題材を選んでしまい大変だった利用者も多かったが、出来上がりには満足し達成感を得られた様子だった。また会話も多く、楽しんで活動する事が出来た。

年末年始にはクリスマスツリーとしめ飾りを作成し、季節の題材に挑戦した。クリスマスツリー作りでは、色や飾り付けも自由な発想で行ってもらい、個性的な作品が多く出来上がった。活動時間中、手の空いた利用者にはゆず屋、タッセル、キッチンで飾るクリスマスツリー作りを手伝ってもらい、その時期に飾る事が出来た。しかし、他の活動との折り合いで、あえて飾り作りの為の時間を設ける事は出来なかった。

利用者は体験含め最大42名が参加。活動曜日である木曜が他の活動等で予定を組めない事が多く、メンバー同士の不公平感を無くす為、各曜日、月2回の活動となった。職員は担当2名と他事業所の職員1名の協力を得て行った。メンバーの増員、個々に

合った題材選び、担当2名体制時の利用者への補助の割合等、課題も多く残った。

(4) レクリエーション活動

月1度、第4木曜日の午後に勤労福祉会館を利用して活動を実施した。5月から9月は勤労福祉会館の改修工事や職員体制、天候等により活動を中止し、10月より2階、勤労福祉会館を利用して活動を再開した。利用者を2組のグループに分け、運動と音楽を前半、後半と交互に参加した。

①音楽

利用者が幅広い楽器に触れられるように事前に様々な楽器を利用して伴奏を録音し、CDで伴奏を流しながらピアノ演奏を行った。楽曲は沢山の利用者が聴いた事があると思われる曲を選曲し、各々の楽しみ方で活動に参加してもらった。

以前より楽器を用いて歌や伴奏に合わせて利用者が演奏していたが、楽器数を増やすことでより自己表現の幅が広がった。特に太鼓は好評であり、利用者によって叩き方も様々で自己表現とリフレッシュに繋がった。

活動全体としては、様々な楽曲を歌い、踊り、楽器を演奏する事で音楽を楽しみながらリフレッシュする利用者も多かった。

②運動

身体機能の維持、向上の他、2階と3階に分かれあまり交流のない利用者が一緒に運動を行うことで全員がアンジュの利用者であることを理解し団結感を高めるよう努めた。歩行不安の利用者と運動機能に問題の無い利用者とのハンデをなくし、座って出来る運動を中心に実施した。

(5) 運動プログラム

午前の「嚙下体操」、午後の「介護予防体操」は利用者の中にも定着し、毎日行った。その他、買物を利用し散歩へ行ったりと運動の機会を増やすようにした。今後は利用者の高齢化に伴い、身体を動かす機会を更に充実させる必要があると考えられる。

(6) 園芸プログラム

行動障害等の理由で集団での活動が難しい利用者に対して、個別に園芸作業を提供した。対象利用者が10月に他事業所へ移動した為、9月末で終了した。

3. 従たる事業所エコライフプラザ

(1) 日用不用品コーナー「ゆず屋」

ゆず屋では40名の利用者が交代で活動した。個々の特性に応じてシフトや作業等を配慮する事で、安定した状態で活動を行うことができた。

販促活動では、区の広報誌への掲載、区との連携でイベントに参加する等、積極的に宣伝を行う事により地域との繋がりが強まり、来客数、不用品寄付数の増加に繋がった。また、販促活動を行う利用者も見られ、仕事の意欲、能力向上に繋がった。

寄付が増加した事により利用者の活動スペースが狭くなった為、近隣に活動場所を確保し、10月より活動を開始した。今後も活動場所としてより安全、安心、安定的な環境を利用者や来客に提供していく事を目指し改善を進めて行く必要があると思われる。

収入：11,023,494円

(2) 喫茶コーナー「タッセル」

平日は午前、午後各2名、土日祝日は1、2名で活動し、10名がローテーションで行った。利用者の能力に合わせ、厨房や店内に分かれ行った。

エコライフプラザが休館のときは、2班に分かれ金種の理解や、レジ操作に慣れる練習の他、お客様への対応等を皆で考える時間を作り意見を出し合い練習した。

6月には職員の負担軽減と厨房の狭さもありメニューの見直しを行ったが、月々の売上げ低下となってしまった。来年度メニューを検討し見直しを行っていく。

収入：3,308,490円

4. 従たる事業所「原町食堂 キッチンkiss」

今年度より奥戸福祉館から引き継ぎ、新たなアンジュの活動として定着させるべく職員3名、利用者5名で活動を開始した。キッチンKiss31名、原町食堂37名の方へ、季節に合ったメニューと栄養バランスに気を配り食事を提供することができた。

原町食堂では利用する方の要望を反映しながら、8～9種類のバイキング形式で提供し楽しみにしてくれる利用者も多く好評だった。また、第二かつしかセンター管轄のグループホームへ、毎週土曜日18人分の食事提供を行った。

年末年始には、餅つき大会(12/27)と雑煮会(1/2)を企画・実施し、近隣のグループホーム利用者が参加し皆さん笑顔で楽しんでいた。

衛生面では、毎日チェックを行い食中毒などの予防に努めた。また、利用者も食品を扱うため自覚が生まれ、身だしなみ、手洗いは良くできていた。

収入：10,281,450円

5. 従たる事業所「モモズレシピ」

店舗営業は職員の体制上の問題で10月13日以降一時中止し、タッセルで販売するシフォンケーキ作りのための製造場所として活用した。地域行事や販売会へは参加した。

○販売会

4月5日(日)	かつしかさくら祭り
6月24日(水)	区役所販売会
6月28日(日)	エコフェスタ
7月11日(土)	通勤寮納涼祭
10月3日(土)	東京拘置所
10月12日(月・祝)	かつしかスポーツフェスティバル2015
10月25日(日)	やまもも祭り
11月8日(日)	ごみ減量・清掃フェア
12月9日(水)	区役所販売会
2月3日(水)	区役所販売会

収入：1,532,416円

6. 従たる事業所「オリーブ」

利用者に合わせてそれぞれが楽しめる活動を提供しながら、身体機能維持の為の運動を日々行った。体調の管理にも注意して様子を観察し、異変があった際には家族や寮職員と連携をとりながら対応にあたった。

①運動

散歩の他、タオル配達、作業部材の運搬、水やり等を通して外に出て歩く時間を設けた。外出が難しい時は、室内での歩行、バランスボール、マッサージ、足浴等で身体機能の維持を図った。

②軽作業

1名の利用者に対し軽作業を提供した。職員が補助したりする事で無理なく生産活動に参加出来るよう工夫した。

③音楽活動

音楽が好きな利用者へ向け、専門の講師と一緒に音楽に触れる場を用意した。音楽を聴きながら身体を揺らしたり、楽器を鳴らしたり等、音楽や講師との関わりを楽しみながら時間を過ごしていた。

④クッキング

料理の工程に携わりながら手先を使い、食べる事を楽しんでもらった。今年度は特に複雑な工程を伴う料理を避け、多くの利用者に参加出来るよう配慮した。

7月-クッキー&クリームアイス 8月-カステラボール 9月-スイートポテト

10月-フレンチトースト

⑤宿泊旅行

7月-国民宿舎サンライズ九十九里 7/2～3

7. 行事

①グループ外出

希望の行先をアンケートにて選択してもらった。参加人数に応じて班を編成し、職員を配置し実施した。普段と違う環境の中で利用者同士の交流が図れた。

実施日	行先
4月16日	市川市動植物園
7月14日	カラオケ
10月22日、11月5日	焼肉、散策
12月7日、11日	都内観光ツアー
2月18日	キューピーマヨテラス

②宿泊旅行

栃木県那須塩原温泉にて1泊2日を実施した。

参加者を4班に分けて実施し、前の班の反省をもとに毎回観光地等を変更してより充実した宿泊行事を目指した。宿泊旅行を通して利用者の新しい面を見出す事ができ、充実した時間を過ごせた。

宿泊場所：栃木県那須塩原市 ホテルニュー塩原

日程 : 1班 5月21日・22日 2班 5月28日・29日

3班 9月30日・10月1日 4班 10月29日・30日

③忘年会

12月24日にホテルラングウッド日暮里で99名(利用者67名、職員32名)が参加し、行事写真のスライドショー、利用者・職員の余興等、和やかな雰囲気での忘年会を実施できた。また、2名の利用者の還暦祝いを行った。

8. 健康管理

利用者の健康状態を把握するため、毎月体重測定、血圧測定を行い、その他に年1回の定期健康診断を実施した。利用者の高齢化もあって、日常の観察、体重の変化等、グループホーム職員へ助言を行い早期発見、早期治療につながるように、健康に配慮した支援を行った。

インフルエンザはピークを過ぎた頃に2名が発症したが、それ以上の発症者は出なかった。手洗い、うがいの他、体調のチェックを行った。

○体重・血圧測定 毎月末

○定期健康診断 12月18日

9. 利用者との懇談会.

利用者数の意見・要望を活動に反映するため懇談会を行った。

9月1日、2月28日

10. 安全対策

防火対策については、利用者の安全を最優先とし、安全かつ迅速な避難訓練を行った。利用者自身にも火災・地震の災害における防災意識の向上に努めた。

・5月27日避難訓練(地震想定)

・10月27日避難訓練(火災想定)

・3月17日避難訓練(地震想定)

11. 職員研修

支援に必要な知識・技術を習得するために外部研修に参加した。また、内部研修を行い支援スキルの向上に努めた。

①外部研修

- 東社協学習会 5/30
- 東社協学習会 6/25
- 東社協学習会 7/29
- 東社埠学習会 8/28
- 東社協学習会 9/16
- 東社協学習会 9/17
- 東社協学習会 12/8
- 人権フォーラム 2/7
- てんかん講座 8/4～5
- 関東地区知的障害施設関係職員研究大会 7/7～8
- 全国知的障害福祉関係職員研究大会 10/14～16
- ダウン症成人期対応セミナー 8/23
- 日中活動支援部会施設長研究会議 9/10～11
- 行動理解・支援力パワーアップセミナー 9/26～27
- 全国生産活動就労支援部会職員研修会 10/21～22
- 全国日中活動支援部会研修会 11/12～13
- 強度行動障害支援者養成研修 2/4～6
- アメニティーフォーラム 2/5～7

②内部研修

- 障害者虐待防止法の理解と対応 6/11

12. 福祉サービス第三者評価

- 株式会社にはほんの福祉ネットにより第三者評価を受審した。

13. その他受け入れについて

- 受け入れ状況
 - ・葛飾区立常盤中学校より職場体験学習の依頼があり受け入れた。
葛飾区立常盤中学校生徒2名 1/25～29